

## 14. タングルウッドの奇跡

五嶋みどりは世界的なヴァイオリニストとして有名な日本人です。みどりは、3 歳頃からヴァイオリンの英才教育<sup>えいさいきょういく</sup>を母親の節のもとで受けます。彼女は母親の期待に応じて、どんどん才能<sup>さいのう</sup>を伸ばし、1982 年にはアメリカのジュリアード学院でヴァイオリンのレッスンを始めます。そして、11 歳の時、ニューヨーク・フィルハーモニーのコンサートでデビュー<sup>かざ</sup>を飾り、天才少女<sup>てん お しょうじょ</sup>と呼ばれるようになりました。その天才ぶりを示すエピソードがタングルウッドの奇跡<sup>きせき</sup>です。

みどりが 14 歳の時、マサチューセッツ州で毎年夏<sup>まいとしなつ</sup>に開かれる、タングルウッド音楽祭<sup>おんがくさい</sup>で演奏<sup>えんそう</sup>することが決まりました。レナード・バーンスタインの指揮<sup>しき</sup>で演奏中<sup>えんそうちゅう</sup>、彼女が使っているヴァイオリンの弦が切れてしまうというトラブルが起きました。この時、みどりが使っていたヴァイオリンは3/4サイズの大きさでしたが、コンサートマスターが使っていた普通サイズのヴァイオリンに持ち替えて演奏<sup>えんそう</sup>を続けました。ところが、コンサートマスターから借りたヴァイオリンの弦がまた切れてしまうトラブルが起きました。今度は、副コンサートマスターが持っているヴァイオリンを借りて、最後まで演奏<sup>えんそう</sup>を終えました。二度にわたって弦が切れるというトラブルで演奏<sup>えんそう</sup>を中断<sup>ちゅうだん</sup>するところだったにも関わらず、慌てることなく冷静<sup>れいせい</sup>に落ち着いて、涼しい顔で演奏<sup>えんそう</sup>を続けたみどりにバーンスタインも感激<sup>かんげき</sup>し、コンサートが終わると彼女を何度となく強く抱きしめました。翌日のニューヨーク・タイムズ紙は「14 歳の少女がタングルウッドをヴァイオリン三挺<sup>せいふく</sup>で征服」という見出しでこのニュースを伝え大きな話題になりました。

天才少女<sup>てんさいしょうじょ</sup>と言われたみどりも、全てが順調<sup>じゅんちょう</sup>だったというわけではありません。その影<sup>\*</sup>で母親との関係で問題を抱えていたようです。母親のレッスンは厳しく、みどりが小さいからと言って全然妥協<sup>だきよう</sup>せず、納得<sup>なっとく</sup>いくまで何度も練習させたそうです。そんな母親に抵抗<sup>ていこう</sup>できなかったみどりは一時期、摂食障害<sup>せつしょくしょうがい</sup>という病気になってしまい病院に入院<sup>にゅういん</sup>せざるを得ませんでした<sup>\*\*</sup>。その後、みどりは母親から自立しない限り病気を

克服<sup>こくふく</sup>することはできないと考え、ボランティア活動や無料のコンサートなどを積極<sup>せつぎよくてき</sup>的に行い、その中で病気を克服していったそうです。みどりの親子関係は理想とは言えなかったかもしれませんが、この母親がいなかったら、みどりは天才<sup>てんさい</sup>と呼ばれることも一流のヴァイオリニストになることも、そして、何よりタングルウッドの奇跡<sup>きせき</sup>も起こらなかったかもしれません。

#### 単語リスト：

英才教育（えいさいきょういく）	Giáo dục anh tài (năng khiếu)	感激（かんげき）	Cảm kích, xúc động
飾り（かざり）	Đồ trang trí	征服（せいふく）	Chinh phục, xâm chiếm
奇跡（きせき）	Kỳ tích, phép màu	妥協（だきょう）	Sự thỏa hiệp
演奏（えんそう）	Biểu diễn	納得（なっとく）	Lý giải, đồng tình
指揮（しき）	Chỉ huy	摂食障害（せつしょくしょうがい）	Chứng rối loạn ăn uống
弦（げん）	Dây (đàn, cung)	克服（こくふく）	Khắc phục